

大山 峻一 (OHYAMA Shunichi)

研究員

1991年 埼玉県入間市生まれ
2017年 筑波大学 生命環境科学研究科 修士課程 修了
2017年 独立行政法人 水資源機構
2021年 農研機構 農村工学研究部門
施設工学研究領域 施設整備グループ



研究者の横顔

<自己紹介>

はじめまして。埼玉県南部に位置する入間市で育ちました。入間と聞いてピンとくる方は少ないかと思いますが、茶畑があり程よく自然豊かな地域で、アウトレットやジョンソントウン（米軍ハウスという平屋が立ち並ぶ区域）などもあります。また、某テレビ番組のおかげで一時期有名になりました。現在はため池やダムなどの農業用施設の安全性や保安全管理に係る研究グループに所属しています。知らないことが多く勉強の毎日ですが、ゆくゆくは多発する災害の被害軽減に貢献することを目標にして研究に取り組んでいます。

<研究と前職での仕事内容>

学部時代には水環境に関する研究を行う研究室に所属し、湖沼の富栄養化対策に関する研究を行っていました。嫌気化に伴い底泥から栄養塩類等が溶出しますが、水の電気分解を用いた曝気手法によって溶出抑制が可能かどうか、霞ヶ浦の湖水と底泥を用いて効果を検証しました。修士では、学部時代に使用した曝気装置に用いられている固体高分子膜が実環境で著しく劣化してしまったため、材料劣化の要因解明を行っていました。大学院修了後には、国内のダムや水路を管理・建設している水資源機構に就職しました。最初の3年間は愛知県で新設の水路を作るトンネル工事に監督職員として携わり、次の1年間は茨城県で水利施設の維持管理や配水、工事・業務の発注に携わりました。その後、施設管理を通して感じた課題の解決に向けた研究に取り組みたいと思い、転職しました。

<趣味>

趣味はマラソンや旅行、酒屋巡り、ハイキング、釣りなどです。長距離走は好きではなかったのですが、健康管理のため学生時代に軽い気持ちでランニングを始めたところ、すっかりはまってしまいました。コロナ渦では、全国各地のマラソン大会が軒並み中止になってしまいましたが、最近は徐々に大会を再開する動きもあり、日々RUNNETとにらめっこしながらどの大会に出ようかと悩んでいます。旅行も兼ねて各地の大会に出場する際には、地元の方が行きそうな居酒屋を見つけてお酒を嗜むとともに、現地の酒屋さん巡りを楽しみにしています。時々マラソン大会に来たのか、酒屋さん巡りに来たのか分からなくなることがありますが。。



各地で購入した日本酒

最近のマイブームは海釣りです。学生時代はよく友人に各地の釣場に連れて行ってもらいましたが、今では自分でも行くようになりました。釣った魚と日本酒で一杯やることを楽しみにして、釣りへ向かいますが、悲しいことにあまり釣れたことはありません。釣果が上らず、ボウズで帰ることもしばしばあります。農工研にいる釣り人の先輩方に、釣りのイロハを教わりたいと思います。